

研究主題（平成 29 年度～平成 31 年度）

## 主体的・対話的で深い学びを実現する授業の創造

### 1 主題設定の理由（生徒・教師の実態から）

昨年度、北九州市学力体力推進室から発行された「わかる授業づくり」5つのポイントを実践している。特に、本校では、①めあて、まとめ、振り返りの実践、②話し合い活動の充実を中心に行ってきた。その結果、この2つの項目で向上が見られた。（資料1参照）

本校の生徒数は452名、学級数14学級（通常学級13学級、特別支援学級1学級）で編制されている。特に大きな生徒指導上の問題もなく、素直で先生の指示には従うが、その反面、自主的・自発的に物事に取り組むことができず、授業中の論理的な発言も少ない。昨年度4月に3年生を対象とした全国学力・学習状況調査の分析においても、自分の考えを深めたり、広げたりして書く問題は正答が低いという実態があった

さらなる向上を目指し、本校では、今年度から3年間、研究主題を「主体的・対話的で深い学びを実現する授業の創造」と設定し、副主題を「3つの視点「話す」「書く」「発表する」を中心に据えた洞北中スタンダードの確立」とした。これを基に新学習指導要領改訂のキーワードである「主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）」を基にした授業改善を推進していく。多様化する社会において直面する様々な課題に立ち向かい、これからの社会を創り出していく生徒に必要な資質・能力とはいかなるものか、具体的な生徒の姿を通して、教師も共に学んでいくことが授業改善につながると考える。

### 「わかる授業」づくり5つのポイント

一時間一時間の授業の中に、教育のすべてがある！  
「北九州スタンダード すべての教師のための授業改善ハンドブック」  
リーフレット版

#### 「わかる授業」づくり5つのポイント

- 1 「学び合いの基盤」
- 2 板書には、必ず「めあて」、「まとめ」と「振り返り」
- 3 子どもの思考を深める「発問」の工夫
- 4 1単位時間の中に「話し合う活動」と「書く活動」
- 5 「まとめ」と「振り返り」終わりの5分の確保

- ◆ 学級やグループで話し合う活動を授業などで行いましたか  
<小学校> よく行った 本市【29.8%】全国【53.6%】  
<中学校> よく行った 本市【9.4%】全国【39.3%】
- ◆ 様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をしましたか  
<小学校> よく行った 本市【19.1%】全国【33.5%】  
<中学校> よく行った 本市【14.1%】全国【26.2%】
- ◆ 授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れましたか  
<小学校> よく行った 本市【45.8%】全国【50.1%】  
<中学校> よく行った 本市【39.1%】全国【40.0%】

話し合う前に自分の考えをノートに記述せよ。「ノートは思考の作戦基地」です。ノート指導を大切に！

H28全国学力学習状況調査学校質問紙より

### 洞北中授業づくり3つの視点

#### 「話す」

- 姿勢を正しく
- 自信をもって
- 聞き手の顔を見て
- 大きな声ではっきりと



#### 「書く」

- 話し合いの前に・・・
- まず、自分の言葉で
- 話し合いの時に・・・
- メモは速く正確に
- 話し合いの後に・・・
- 再度、自分の言葉で



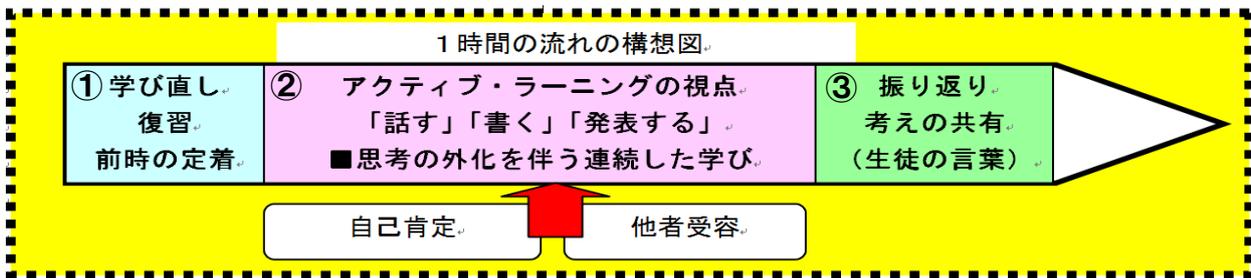
#### 「発表する」

- 個人それぞれの考えをみんなで共有しよう！
- 大きな声でゆっくりと
- 写真やグラフなどを使いながら発表しよう



## 2 本校での具体的な取組について

### (1) 「洞北中スタンダード」での基盤づくり構想図



#### ① 復習等による基礎的事項の定着

授業開始2分間、前事の授業を友達と説明する（理科）。フラッシュカードを使って、覚えさせる（国語科・英語科）。漢字の書き取りテストを行う（国語科）。小テストを継続して行う（数学科・社会科）。

#### ② 授業の中での話し合い活動の充実

ホワイトボードを使用し、思考の流れを可視化する話し合い活動を行う。話し合い活動の際には思考ツール（イメージマップ、ベン図等）を活用する。

#### ③ 振り返り・共有の徹底

「今日の授業では、〇〇について学びました。そして、□□ということが分かりました。新たに△△という疑問が生まれました。」など話型を決めて書く活動を促す。最後に発表することにより、学級全体で考えを共有する。

### (2) 研究主任を中心とした4つのプロジェクトの推進

4つのプロジェクトによる全校体制の確立							
学力・体力向上推進委員会							
＜校長・教頭・教務・研究主任・各プロジェクトの代表＞							
授業づくりプロジェクト		学習環境づくりプロジェクト		基礎学力・体力向上プロジェクト		道徳教育プロジェクト	
柱1	授業改善	柱1	教室環境	柱1	家庭学習	柱1	授業改善 (含ローテーション/道徳)
柱2	スタンダードの検証	柱2	教室外環境	柱2	朝自習	柱2	資料の蓄積
代表	3平山	代表	3村松(給)	代表	3吉武(美)	代表	3眞崎(道)

組織的に実行するため研究主任を中心とした4つのプロジェクトを立ち上げた。授業づくり部（授業改善）、学習環境部（校内掲示・環境づくり）、基礎学力・体力向上部（朝自習、家庭学習）道徳教育部（道徳の教科の施行）の4つを設定し、組織的に進めている。（授業づくり部は全員公開授業を実施し、授業についての協議を通して、授業改善を図っている。）

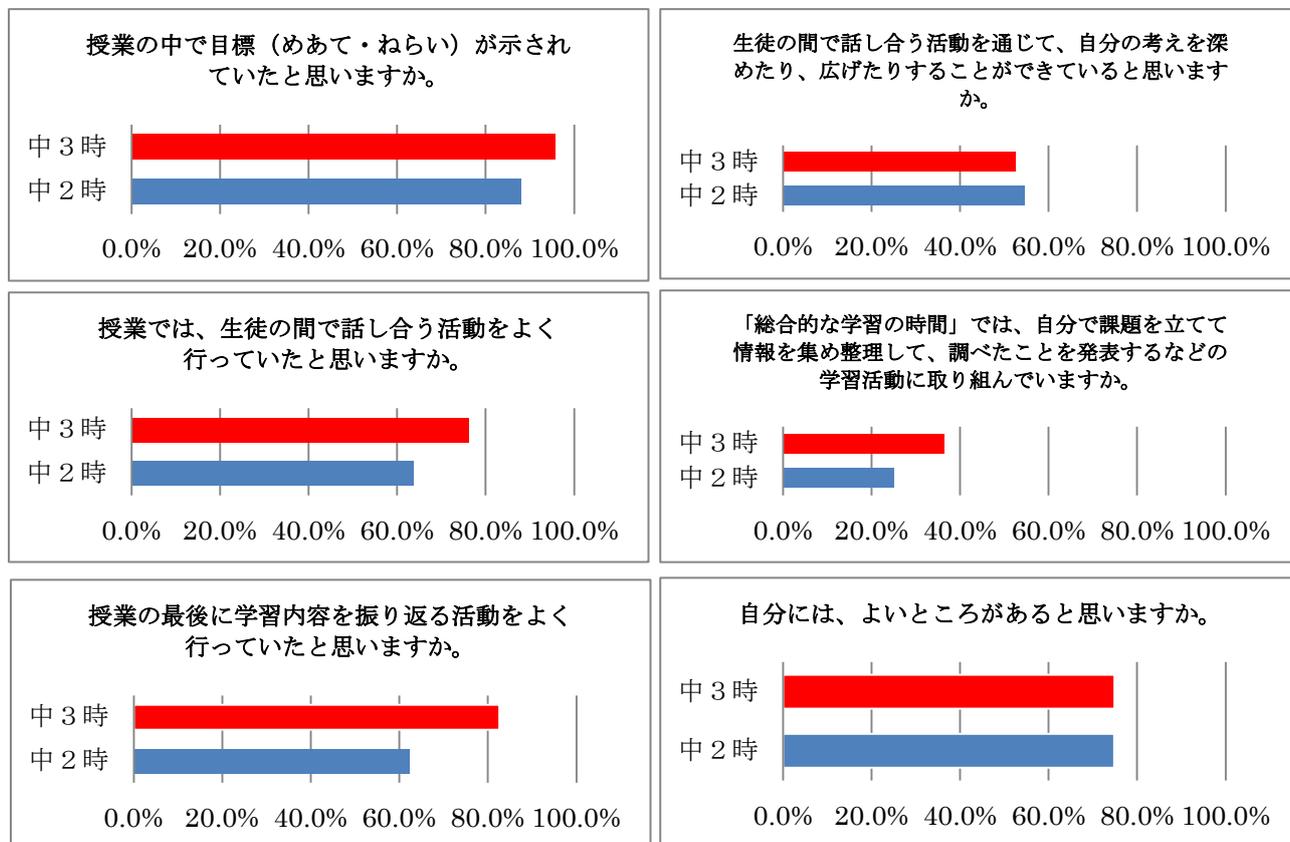
これまでの授業づくりは、教師主導が中心であったことが課題である。よりよい授業を展開し、総合的に学力を高めていくには職員の意識改革が重要である。－教師が変われば学校が変わる－「チーム学校」として授業改善に全力を挙げ、洞北中スタンダードを構築していく。

上記の(1)(2)の実践は今年度スタートしたばかりである。4つのプロジェクトを横断的に関連付けながら、教師の力を高め、「学校力」を高めていく。この「学校力」の高まりが、ひいては、生徒一人一人の、基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得することへ、そしてそれらを活用して、思考力・判断力・表現力を育むことへとつなげたい。

(資料1)

全国学力学習状況調査（3年時）と北九州学力状況調査（2年時）における同一学年での生徒質問紙の結果（一部抜粋）

下の％は 肯定的回答（「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」等）の割合の合計



(資料2) 本校3年間の研究の見通し

年次	研究の概要
1年次 (平成29年度)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ グローバル社会を生きていく上で必要な力を教職員で共有し、校内環境の整備、「書く・話す・発表する」のスタンダード化を図る。</li> <li>○ 知・徳・体の調和の取れた向上を目指し、年間指導・評価計画を4月に立て、カリキュラムマネジメントを行って「ゴールを見据えた指導」の意識を共有化する。</li> <li>○ 4年間継続している地域の外国人留学生との交流を通して、国際理解教育を推進・発展させ、グローバル社会を自信をもって生きる素地をつくる。</li> </ul>
2年次 (平成30年度)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 前年度の研究をさらに定着、拡充していく。前年度の成果と課題を分析し、教職員で共通理解を図って、PDCAサイクルで研究を行う。</li> <li>○ 各教科で作成した指導計画・評価計画の見直しを行い、より効果的、横断的な指導方法を確立していく。</li> <li>○ 「書く」「話す」「発表する」について、前年度につくったスタンダードについて検証し、進化・発展を図る。ICTの活用70%を目標とする。</li> </ul>
3年次 (平成31年度)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 最終年度として、これまでの研究成果の検証とまとめを行い、将来を見据えたキャリア教育の充実につなげる。</li> <li>○ 教育課程を円滑に進行し、基礎的・基本的な知識・技能の習得を基盤とし、活用する力、表現する力を高めて、課題解決能力の向上を図る。</li> <li>○ 教科、領域の学習を通じて、社会に出て通用するようなプレゼン力、コミュニケーション力、コラボレーション力を身に付けた生徒を育成する。</li> </ul>